



森のなかま

2022年 11月号

NO. 173 (継続318号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

《やどりき事業部特別企画》2022年度 第2回 『やどりきの森へ行こう！』

【溪流散策とやどりきの成り立ち】

日時:2022年9月17日(土) 9:30-14:30

講師: 神奈川県立生命の星・地球博物館 山下浩之先生(地質学、岩石学)

参加者:26名

インストラクター:L 水口⑨、上宮田⑪、古舘⑬、藤井(敏)⑭、藤井(世)⑭、河西⑮、飛田⑮、久次米⑯

(記 久次米 久美子⑯)

「やどりきに行こう」テーマ「溪流散策とやどりきの成り立ち」は、地学的に特異的な丹沢について深く知りたいという要望の中、神奈川県立生命の星・地球博物館 山下浩之先生のご厚意でなんとか企画までこぎつけたものの、一昨年はコロナ感染症蔓延、昨年は悪天候のため中止になりました。今年は3回目のリベンジで臨み、我々をはじめ参加者の方も期待が膨らむ中、当日は台風14号の影響がとて心配されましたが青空も垣間見られる天候でやっと実施することができました。

参加者のみなさんは新松田駅からチャーターバスで水源林までお越しいただき、まずは集会棟前に集合。イベント責任者から開催の目的、プログラム説明、山下先生のご紹介の後、先生によるミニ講座です。「丹沢の生い立ち」は1700万年前に遡り、海底火山の爆発→陸化→フィリピン海プレートの北上移動で本州に衝突(500万年前)→丹沢の下にマグマが貫通

(400万年前)→伊豆半島が本州に衝突(100万年前)→丹沢が隆起現在へ。その時々ドラマにより水源林で見られるいろいろな岩石が生まれたことについて教えていただきました。参加者のほとんどが、「**丹沢は南の海の中でうまれた!**」ことに、とても驚いていました。

講座後、大きく2グループに分かれ、ひとグループは前半、山下先生と丹沢の成り立ちの痕跡探し、もう一つのグループは自然観察に分かれての散策です。

まず、先生から滝郷の滝で瀑布の音を聞きマイナスイオンを浴びながら滝のできたについて説明を受けました。滝には断層と思われる痕跡も見ることができました。林道コースでは300年ほど前、富士山宝永火山爆発時の火山灰(スコリア)によってできた5mmほどの

黒っぽい土に触れました。初心者には周囲の土とどこがちがうのかわからず「本当??」と小さな声が聞こえてきました。経路の至る箇所で海底火山の緑色凝灰岩を確認。林道コース終点では大きな岩がゴロゴロしているところで、その岩の一つが海底火山であった証拠の「**枕状溶岩**」であることの説明を受けました。海水の中で溶岩噴き出すとその周りが瞬時に固くなり、その裂け目からまた溶岩が噴き出すことを繰り返すことでこのような

ミニ講座でみなさん、先生の話に集中です



滝郷の滝(17m)での説明



まるい形の石ができること。とても想像を掻き立てられました。参加者の中には大きな岩に触れ、岩に上りしばらくハグしている方もいました。・・・1700 万年の時を感じていたのか・・・。

戻りはグループを入れ替わり、インストラクターによる自然観察です。サンショウの赤い実、ホトギスの花、コボタンヅルのふわっとした種、また、形が独特のツノハシバミの実も見つけました。「これがナッツ？ 食べられる？」と興味津々で、皆さんカメラを取り出し、まるで撮影会のような様子でした。ムササビの巣を探し、食痕を見つけ「どこを食べるの？」「これが餌？」不思議そうにながめたり、匂いを嗅いだり「これ美味しいの？」等々。初めて見たり、触れる物も多かった様で、水源林の自然豊かさを体験していただきました。



枕状溶岩 水源林ではここだけ！



先生に、拾った石の説明を受ける

さあ、皆さん 沢での石探しです

昼食後は山下先生から寄沢で見られる石や紙による「石図鑑」の台紙づくりについて説明を受け、沢に降りての石探しです。思いもいれず珍そうな石を拾い集合。先生に持ち寄った石の種類を教えてくださいマジックで記録。「これは安山岩であってますか？」など先生は熱心な参加者に順次丁寧に説明していただきました。先生は図鑑作りや石の内側を見るために「石を割りたい方どうぞ・・・」とハンマーを持って回って下さいました。石の



ツノハシバミの実



ムササビ食痕
(エビフライこと、ヒノキの果球)

見分けは難しく図鑑作りに至らない方もいましたが、5 種類の

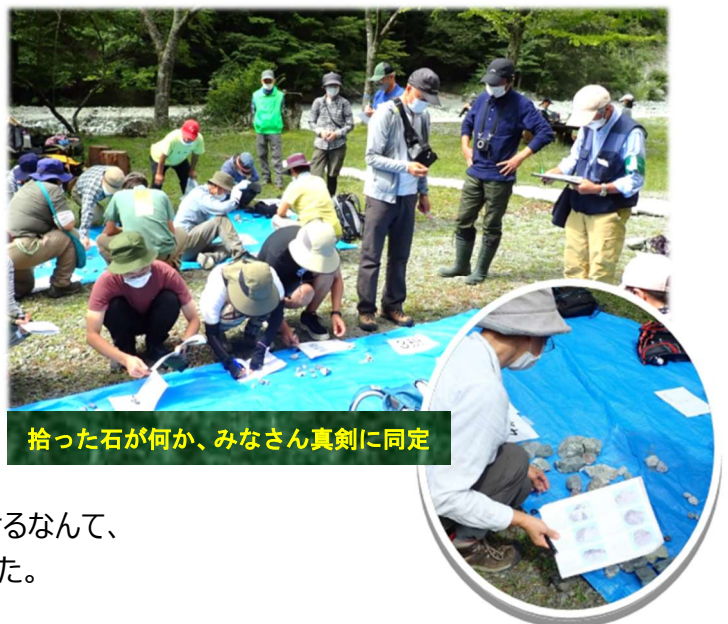
石を並べ「私の石図鑑」を完成させ嬉しそうに持ち帰った方もいました。

今回はお子様の参加もあり、そのご家族対応のプログラムも準備しました。散策以外に沢では長い棒を耳の後ろ当て、棒から伝わる水の流れの音を聞き(木伝導)ました。木の長さ、太さ、入れる場所によって微妙に変わること気付くと何度もチャレンジ。また、ストーンペイントも楽しみました。

どっぴりやどりき水源林の自然につかった1日、その人らしく自然と大地のスケールの大きさを味わい楽しんでおられたように感じました。山下先生の分かりやすい説明、親切丁寧な対応に参加者は丹沢の成立ちに

興味をもち楽しめたと思います。本当に有難うございました。

参加者の中には先生の様な方に直接教えていただけるなんて、とても貴重な体験だったと言うお言葉もいただきました。



拾った石が何か、みなさん真剣に同定

やどりき事業部

植物班シダ観察・動物班（夜間昆虫観察）合同調査活動

シダ観察講師：西岡⑭ ～ 動物・昆虫観察講師：波多野⑨

日時：2022年8月27日（土）9時～20時

参加者：佐藤①、波多野⑨、永松⑫、古舘⑬、國弘⑭、西岡⑭、野村⑭、河西⑮、久次米⑯、上宮田⑰ 計10名

< 記 写真 上宮田 幸恵⑰ >

2022年度の植物・動物合同調査活動の6回の計画のうちの2回目を8月27日（土）にやどりき水源林で開催いたしました。参加者の自己研鑽への支援を目的としたものです。

○午前中はシダの観察調査を14期の西岡氏に御指導いただきながら行いました。神奈川県植物誌で紹介されているシダ類は400種、そのうちやどりきでも見られる添付資料の24種を参考に観察のポイントなどを説明頂きそれぞれの特徴について確認しました。

クマガゴケ・ウチワゴケ・クジャクシダ・イワトラノオ・フモトシダ・ゲジゲジシダ、利尿作用や鎮痛剤として薬効のあるカニクサ、スギナそして山菜として利用しているゼンマイやワラビもシダの仲間

間だったことに改めて気づき、やどりきにもシダやコケ類が沢山あることを皆で共有しました。

○昼食休憩時、クロコノマチョウ（幼虫）発見の報せを受け、ススキの葉の裏を覗きますとウサギの耳状で目をクリクリさせた生物！何とも愛らしいこと！初めての忘れられない出会いにみな感動が伝わってきました。

○14時から動物班との合同活動です。夜間の昆虫観察の設営後、暗くなるまで数か所の樹洞を回りながらムササビの出巢を待ちました。残念ながらこの日は動く気配なく、可愛い姿をみることはできませんでした。夜間の照明塔のライトトラップにはオオミズアオ・ヤマユ・トビケラ類・ドクガ類・ウスバカゲロウ・カミキリムシ・アカアシクワガタ・ヒメシャク・ホシシャク・エダシャク・スミナガシなど 初めての耳にする昆虫たちが沢山集まってきました。その数50種弱。出会った昆虫類を写真付きで動物班メンバーがまとめいただき、参加者に配布していただきました。この貴重な出会いは直ぐにインストラクターの活動に生かされるものと思います。



ライトトラップの準備

灯りに集まった昆虫の観察





＜丹沢・大山自然再生委員会のブースに参加＞

日時 2022 年 10 月 8 日・9 日

場所 横浜 山下公園

参加者 フェスタ全体で 22 万人(横浜商工会議所 HP による)

スタッフ 丹沢大山自然再生委員会 12 名・13 名

(内インストラクターの会より参加 8 日小笠原⑩ 9 日 滝澤⑤)

＜記・写真 滝澤 洋子⑤＞

台風と新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となっていたワールドフェスタが 4 年ぶりに開催されました。ワールドフェスタは「食べて・遊んで・世界の旅」をテーマに日本各地の味に加え、各国の食べ物や雑貨のお店が並び、ステージでも様々な国の踊りや演奏、民族衣装のファッションショーなどが披露されました。

フェスタの特別協賛であるウエインズグループのエリアの一角にかながわ森林インストラクターの会も加わっている「丹沢大山自然再生委員会」のブースが出され、丹沢の自然や現在問題となっている事柄と県の取組また登山関連などを紹介しました。ブース前に置かれた雌のニホンジカのはく製にひかれて、丹沢に興味のなかった方々も多数ブース内に入ってくださり、スタッフの熱い思いのこもった説明を聞いてくれました。またブナ林の大きな背景の前ではく製のツキノワグマやニホンカモシカと一緒に写真を撮るコーナーも人気でした。景品に誘われてクイズラリーに参加するお子さんも多数いました。子ども向けと考えていましたが、葉っぱのしおりが欲しいと年配の方もクイズに挑戦されていました。

山下公園での開催ということで、いろいろな所にお住まいの方が来場されるイベントにおいて、丹沢の自然とは縁遠い方にも丹沢の一端をご紹介できたことと思います。

(余談・ブース前のニホンジカに大興奮だったのは、一緒に来場のワンちゃんたちでした)



丹沢の自然再生に取り組む 丹沢大山自然再生委員会の
ホームページをご覧ください。 <http://www.tanzawasaisei.jp/>

活動短 信

今回の掲載は R4 年 8 月 20 日から 9 月 9 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

11 月(霜月)(旧暦 10 月神無月)の 二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

立冬 11/7 頃

冬の始まり、山茶花や水仙が咲き始める。田んぼでは、稲刈りが終わって、脱穀、粃すり作業です。

小雪 11/22 頃

木枯らしが吹き始め、寒さが増すころ、田んぼでは 1 年の勤労に感謝し、収穫祭の準備です。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので)写真もあれば添付ください。

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

 インストラクター① (○数字:期)  研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 三菱重工エンジン&ターボチャージャ(株) 「やどりき水源林での各種活動」

日 令和 4 年 8 月 20 日(土) 10:00~15:00 曇り

場 足柄上郡松田町寄 やどりき水源林

参 22 名(大人 10 名 子ども 12 名)

県 水源環境保全課 水源事業 G 村松様 佐藤様

 L 上田⑩ 大友⑩ 古館⑬ 山崎⑦ 野牛⑦ 宮下⑩

9 時 30 分開門し参加者の到着を待った。それ以前にインストラクター 2 名が、18 日の大雨の影響の確認のためやどりき沢の水量と沢横断箇所の安全確認及び水生生物の採取場所の確認を行った。10 時前に参加者のバスが到着した。

担当者に本日の現場の安全状況について説明した。双方の了解のもと予定されたプログラム通りの活動で支障なく安全に活動できることを確認した。

10 時から開会式を行い県担当者から県の水源環境保全についての取り組みとこの活動についての協力に謝意を表した。担当インストラクターから本日の活動の

概要と留意事項について説明を行った。準備運動のうち午前中の活動の班分けをし活動が始まった。

1 班は成長の森 19-11 でカツラの間伐(除伐)を行った。大人 7 人子ども 8 人に指導インストラクター 3 名、県担当者も同行して現場に向かった。ヤマビルの多いエリヤのため万全の防護対策を行ったはずだったが被害にあった。選木されていたカツラを伐倒・枝落としをし、クラフト材料にするため伐採した材は集会棟まで下ろすこととした。持ち運びできる長さに玉切りされ約 20 本程を持ち帰ることが出来た。

自然観察は B コースを周り、林内に設置された看板を見ながら 2 名のインストラクターが案内した。テーマはこの時期草花などの目立つものがあまりないため、林相の違いや、丹沢の山々の成り立ち、そして水源環境保全について資料を家族ごとに配布して、説明を行った。森とみずの関係を再認識し水源環境保全について関心を持って聞いていただけた。

午後の活動は水生生物の観察とクラフトを行った。水生生物の採取はタカナシの森溪畔林の小さな流れで行った。ここは先日の大雨の影響を受けておらず採取成果は思った以上でカゲロウ、カワゲラ、ガガンボ、ヘビトンボ、そしてプラナリアも採取できた。時間が足りないくらい盛り上がったがリリースをして観察を終了した。

クラフトはシュロバツタ作りと丸太切、それに準備しておいた小枝を輪切りした木片などに思い思いの発想で着色したり、模様を描いたりしてペンダントなどを作っていた。2 時半ごろから小雨模様になったがぬれるほどでなく活動に影響はなかった。

(記、写真 上田 啓二⑩)



水生生物観察



いろいろな素材を使ってクラフト

◆ 第 7 回 県民参加の森づくり(除伐)

日 令和 4 年 8 月 24 日(水) 8:30~16:15

場 箱根町元箱根(県有林)

参 88 名

町 勝俣 箱根町長 県森林組合 西口課長

財 豊丸課長、藤本様

看 佃様

スタッフ 小田原市森林組合

イ L 石川⑫ 鈴木⑧ 内野⑨ 小笠原⑩ 山口⑪ 柏倉④ 小松⑭ 野村⑭ 岡村⑯ 原田⑯ 小林⑯

天気図に前線のない日が続いている。雨か曇りか晴れの予想であった。どうも夕方あたりから雨が降るようだと誰かの声、集合時間から気温は 30℃ 近く、湿度が高い薄曇りの天気は歓迎されていない小田原駅前の様子であった。

小田原駅から 3 台の大型バスに分乗して箱根高原ホテルへ約 1 時間で到着した、今回参加の特長は、親子連れのご家族、ネットで検索されたボランティア大学生の方々、井上緑の大使などの参加があり若々しい雰囲気であった。今回は、いつもお世話になっている箱根高原ホテルの遊歩道の左側の除伐作業がミッションで、伸びた笹竹及びアオキの除伐で 1 班を先頭に 5 班まで約 80 メートルを一人ひとり横並びの状態で、目の前の繁みに向かって突入する。今回は初心者の方も多く、熟練者の方やインストラクターに丁寧に教えてもらいながら前進されていた。笹は剪定ばさみで根本から切り、アオキは竹鋸で切りながら、太いアオキの枝は熟練者の方に助けてもらって作業する姿は微笑ましく思えた。その結果、遊歩道から 5~6 メートル程開けると広くて明るくなりました。「良かったですね」と、一斉に声が上がって疲れも汗も吹き飛んだ。

一方作業途中に熱中症気味の男性があり看護の為ホテルで休まれる事態があったものの、他に怪我をされた方はなく予



定より 15 分早く打ち切り、道具の手入及び収納を終え閉会した。その後はお待ちかねの昼食・入浴タイムを前後に分けて済ませた。それから 13:15 から体育館にて「ボランティア発表会」が開催され、会員皆様多く参加された。まず箱根町勝俣町長から励ましとお礼の言葉の後、宮城野女性会 58 名による 20 年に渡る足柄線林道の

清掃活動や地域奉仕の実態、大雄町花咲く里山協議会様の活動報告は森林インストラクターと横浜国大生による活動により現在の成果を示していることを強調された。2 時間に及ぶ発表会は充実した時間であった。

(記 写真 小林 照夫⑯)

◆ 日揮ホールディングス株式会社
染色活動

日 令和 4 年 8 月 27(土) 10:00~15:00 晴れ

場 足柄上郡松田町寄 やどりき水源林

参 7 名

イ L 菊地① 篠原⑨

蒸し暑い中ときおり山の風が吹く日の活動となりました。折角山まで来たのですから染料は、山から頂こうと採取。材料を煮だす事 30 分。その間に布に模様を付けます。煮汁に布を浸しながら更に 30 分煮ます。取り出し媒染してから再び 30 分煮てから水洗い、乾燥です。今回は、蒸留水も同時に作ってみました。草木染は、同じ場所で採取したものでも季節や天候などで同じ色にはならないし、見た色と染めた色は違うという説明をしました。とても面白かったと感想を頂きインストも一期一会の充実した時間を過ごさせていただきました。



(記・写真 菊地 昭子①)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は 12 月号です。

森のめぐみ シリーズ

かながわしずくちゃん Facebook は下記 URL で見ることができます。

かながわの水環境の
保全・再生をめざして

<https://www.facebook.com/kanagawa.sizuku>

◆ 第 8 回 県民参加の森づくり(下刈り)

日 令和 4 年 9 月 3(土) 8:30~13:00

場 秦野市 表丹沢野外活動センター

参 45 名

市 秦野市 木村課長

財 豊丸課長、藤本様

看 榊様

イ L 湯浅⑪ 上宮田⑪ 稲辺⑤ 大橋⑪ 波多野⑨
岩田⑭ 西出⑫ 水野⑭ 大見⑮ 角石⑮ 永田⑯

秦野駅南口よりバス 3 台で現地へ向かいました。

オリエンテーション後、道具を身に着け 5 班 5 区画で活動場所へ。現場が斜面で足元が悪く、また前日の雨でヒルが活発に動くと思われたため、安全目標は「足元注意ヒル警戒」としました。活動班ごとの作業範囲が一部境界がはっきりせず、混乱がありましたが作業は無事完了しました。やはり警戒はしていたものの 5 名の方がヒル被害に会いました。

反省会ではトランシーバー 1 台、シャープナー 1 台が紛失、インストラクター全員での捜索でトランシーバーは発見しましたが、シャープナーは発見できませんでした。(記 永田 裕徳 ⑯)

◆ 株式会社 WAKUWAKU

「わくわくのもり 森林活動」

日 令和 4 年 9 月 9 日(金) 10:00~16:00 曇り

場 足柄上郡松田町寄 やどりき水源林

参 34 名(大人 34 名 子ども 0 名)

県 水源環境保全課 水源事業 G 岡田様 武田様

イ L 上田⑩ 野牛⑦ 高橋⑧ 宮下⑩ 山下⑪ 安井⑫
古館 ⑬

45 名の参加予定で計画されていたが、34 名の参加者を乗せたバスは 10 時前にやどりき水源林に到着した。

ゲート前でバスを降り、やどりき水源林の概要を管理棟前で説明した。集会広場に移動して開会式が行われた。

パートナー活動では珍しく参加者はほぼ 20 才代の青年男女で若さのエネルギーに満ち溢れていた。社の環境保全活動の取り組みについて活動責任者からの話があった。

県担当者のあいさつの後活動のスケジュールと注意事項についてインストラクターが説明した。準備運動の後各班に分かれて午前中の活動が始まった。

成長の森のカツラの間伐に 18 名が参加し、ヒルと格闘しながら予定通り一人 1 本の間伐を行い、集会棟まで持ち帰った。

B コース散策は 6 名が参加し周回しながら神奈川の水源保全の取り組みや丹沢の成り立ちなどについて話した。

A コースは 9 名の参加で後沢合流付近で寄沢を渡り成長の森を通して A コース周遊路に出た。複層林、混交林、そして巨木林などに整備されている林を観察しながらやどりき大橋まで歩いた。



自然観察 A コース

午前中の活動の間に午後の森林癒しの準備を 2 名のインストラクターが行ったため午後からの森林癒しの活動がスムーズにスタートすることが出来た。

4 班に分かれ各班ごとに 4 つのポイントを 90 分でめぐるプログラムで、森の香り、森林安息、樹冠の揺らぎ、座観、呼吸法、風と音を感じる、滝郷の滝下では心地よい冷気を受け、林間につられたハンモックに揺られて森林安息を体感した。盛りだくさんのメニューで若干時間が足りなかったが、参加者皆さんの反応はすごくよかった。都会の喧噪の中で仕事をしている人たちにとっては今回の体験を通して森林の持つ癒やしの力を十分に感じてくれたと思います。



森林癒やし (樹冠の揺らぎを感じる)

活動の最後に看板前で記念写真を撮って本日の活動は無事終了した。(記・写真 上田 啓二⑩)

緑の募金
シンボルマーク

緑の募金キャラクター
どんぐりくん・どんぐりちゃん

かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で 5 番目/NPO 法人で初めて委嘱されています。

